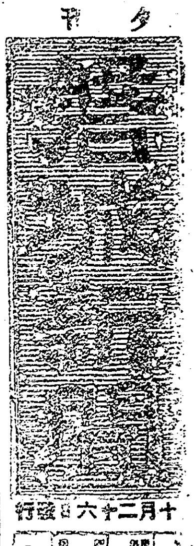


十月二十六日發行

創作 憂鬱な詩人〔七〕

張文環

「富田さん、僕にはあんたの氣持がよくわかるのです獨唱者に對する尊敬の念が得れるときさう云ふふうになります」

みよは頭をふつてそれを否定しようとした

「富田さん、かくさないでもいゝんですよ。大抵僕らかんじて居ります。」云ふまいと簡は思つてゐたけれどみよが餘りにかくさうとするのでゐるので簡はとうとう云つてしまつた「あなたほどい藝術家ではないけれど詩ぐらゐ書いて居りますから、それ位のことはかんじて居りますよ」

「えゝ、でも」

みよは素直になつた

「後で申し上げますから。旅館へ歸つたら、散歩に出る時さそつて下さる？お願ひしますわ」

旅館に歸つてきて、風呂に入り、そばを喰ひ、いよいよ自由な時間になつてから散歩に出る段になると時計は十二時過ぎになつてゐた。簡もみよの氣持を酌んで男達と出るのをさけてゐた。

かけら月は椰子の葉末をさへつて、芝草のうへに落ちてゐた。南國の暑さは夜更けの風に拂はれて、甘蔗の葉はさらさらと鳴つてゐた。みよは簡と肩をならべて、公園の入口まできたが、園內は少し暗すぎるので踵をかへして、田圃のある通りの方へと歩きだした

「簡さんのおつしやつてる意味とは少し違つてますのよ、さう反對と云つたはつきりしたものではなく、ときどきこういやな氣持がするもんですから」

「ねえ、わかります。よくわかります」

「あたしがもし嫉妬が出來るものなら、それも美しいものになりますれど、どつちかどいへば輕蔑したくなるやうなものが多いのですもの」

「しかしですね、富田さんこんな常識的なことを言つて、あなたに笑はれるかも知れないけれど、その苦しみがやがては樂になりますよ。藝術家が苦痛に對する見方は客觀的な所があるからゆとりが生れてくるけれど、凡人の苦しみはそれ自身が諸共に苦痛のなかにまきこまれてゐるから」

「ねえ、そりやわかりますけれど、何んだかぞかんはしくて」

「そりやさうですよ。だから僕の云つてゐるのは、そのわづらはしきの感情を選り分けることですよ」

「でも、そんなことあり得るのか知ら」

みよは話の穗先をかへて云ふのだつた。

平局俳黎會句集（一）

「淨光の歌」

○朝顏の紫澄みて風すがし　大和田水明

○花ざくろ染めてゐし日の落ちにけり　同人

○月に濡れし葉の冷たさを居にしぬ　同人

○倒れしは倒れしまゝに野菊咲く　同人

（山寺ニテ）

○念々誦す彌陀の大悲や地獄谷　同人

10月27日

〈吉田松陰處刑せらる（安政六）△秋月の亂（明治九）△皇居を宮城と改稱す（明治二一）

10月28日

〈濃尾大震災（明治二四）△三年兵役を二年とす（明治四〇）△蒙古獨立を宣言す（昭和一二）

○

健康を保つは人間第一の義務なり　スペンサー

連續講談 異說赤穂浪士

別題「異說赤穂義士」「赤穂誠忠錄」

［42］

桃川若燕

城木齋

大石と重兵衛の出會

「千助、あれが大石內藏之助殿か？」

「左樣でございます、今聞きましたに馬子と喧嘩をして、馬子の爲めに田の中に放り込まれ、漸く這ひ上つて寢てしまつたのださうでございます」

「ウーム然うか、今日は拙者に取れば大吉日だ。僕の御用で江戶表へ參る途中平常から一度御面會致したいと思つて居た、大石殿に面會致すと云ふは此の上もない悅びである」

×刀を左に提げて內藏之助の傍へ寄り、様子を見ると前から知らずグーツ／＼と高鼾で寢てゐる。宇都宮重兵衛は熟とその寢顏を眺めてゐたが、やがて

「內藏之助殿お覺め下され拙者は松平薩摩守の家來、宇都宮重兵衛と申す武骨者でござる。予ねて尊公の胸中お察し申してゐる拙者此度江戶表に御用にて參る途中、斯く御面會を致すは何よりの悅び爾は言葉を下さらない、內藏之助殿――大石氏――」

三四度呼んだが、答へもなし、傍に居た千助が呆れ顏をして、

「旦那樣、お止しなさいまし、起しても起きないものを、何時まで呼んでも仕方がございません、武士は轡の音に目を覺ますと申すが、幾ら醉つて寢たとて此の位呼んで起きないのは、寢たのぢやアありません、死んだのでせう――」

「默れ、其方共の知る所ではないわ」

云ひながら大石の様子を熟つと見てゐると、やがてウーンと伸びをし乍ら足を揚げた內藏之助、脇の水溜りへボチャリと足を入れた途端に宇都宮重兵衛の頭から羽織袴へ泥水がパッと掛る、吃驚して後へ退る重兵衛、腹を立てるかと思へば然うではなく、

「ウーム成程、此處に於益ない事と思召し、其を怒らせやうが爲め、泥水を掛けたといふ實に驚き入つた御心底、尊公の足にて掛けられし泥水、此羽織袴を拙者の家に長く傳へ誠忠無二の內藏之助殿に掛けられし泥水とて長く申し傳へるやうせる」

「旦那樣／＼そんな汚い物が寶になりますか、旦那は平常の疳癪持に似ず今日に限つて腹を立てないのはどうかなさいましたか」

「控へろ、下郞の知るところではないわ……內藏之助殿お起き下さい、お覺し下され――」

肩に手をあて起したが中々起きる樣子もない。

答へて見て宇都宮重兵衛

「然らば內藏之助殿御覺悟を拜見いたし、それにてお別れ致す」

と云ひ乍ら傍らに投げ出してあつた刀を手に取り上げ

「千助見ろ、これが誠忠無類の內藏之助殿の御刀か。」

「ヘエー淺野の御城代が竹光をさしてゐるとは、イヤハヤ呆れ返つて物が云へませんね」

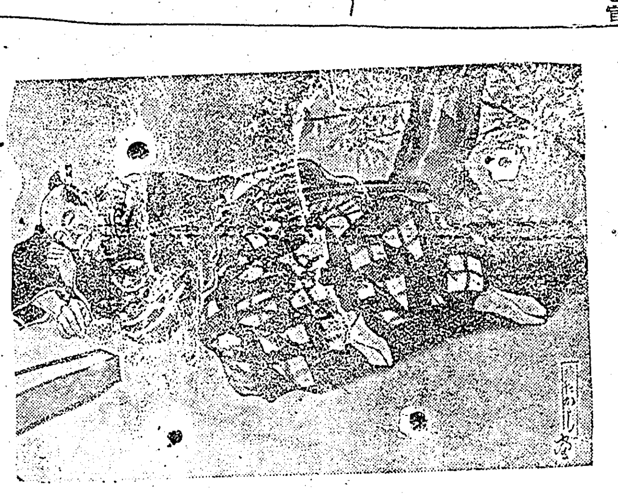
「默れ、無禮者め、此の刀は今中身を見せて遣はすぞ――」

「見ると、旦那樣のお見込みは中身が立派な物だと思つてゐたのですね」

「イヤノ／＼此の中身は必ず錆てゐるに相違ない」

「ヘエー何の役にも犬侍でも千五百石も取つた家老が帶くる刀に、錆があるとは思はれません」

「イヤ、然うぢやない、必ず錆てゐるぞ、ソレ拜見しよう」



おでんさ
ヤキトリ
田町末廣トナリ
一柳

田舍の
たしること
おぞうに
中田町電632

木村外科醫院
平市南町十四番地（警察署通り角）
（營診療所 平市六丁目）
外科一般
內臟外科
性病科
肛門病科
木村淳
電話三〇九
◎入院應需

內臟外科
整形外科
胃腸
性病
內臟外科 脳脊髓病科
整形外科 レントゲン科 理學療法科
內科 胃腸病科 肛門病科
花柳病科 皮膚病科 泌尿器病科
醫學博士 松村亨
醫學得業士 松村鐵郎
平市南町 電一〇七
松村醫院

吸入用酸素
純度99%
度量衡
計量器
セノサシ マス ハカリ
體溫器 寒暖計
關內藥局
電話四〇番

セウシマカ協ニ令禁七・七
Refinetex
リファインテックス
◇純毛各種取揃◇
秋
セビロ三ツ揃
○停¥60.00ヨリ
○停¥130.00マデ
オーバー
○停¥55.00ヨリ
○停¥130.00マデ
冬
セビロ三ツ揃
○停¥60.00ヨリ
○停¥130.00マデ
オーバー
○停¥55.00ヨリ
○停¥130.00マデ
國民服（中衣共）仕上り五〇圓ヨリ百拾圓マデ
大崎洋服店
平銀座 電96

簡易金融
小口も歡迎いたします
茨城相互株式會社 平出張所（金融業）
綠川喜三郎
假事務所 平市才槌小路四二

新刊書籍
月刊雜誌
特價圖書販賣店
三英堂 村山書店
平市中央通（驛前通）

これは便利！
△手を荒さず
△絹、毛織物、木綿、スフの生地を傷めず
△つけておくだけで洗へる
㊮マルミ粉末石鹸
製造元 平市材木町二

平看護婦會
附屬に
家政婦會員を募集
致します
電話三〇七番

產婦人科
井坂醫院
平市田町 電五五九
見習看護婦入用

銃後の皆様におすゝめする
（糸イラズ）
綿布、絲糸、暴膜の折柄古き破れたる足袋、靴下メリヤス、ジャケツ、其他何品に依らず活かして御使用出來ますから一家の經濟は勿論ひろく國家の經濟は莫大なものとなりませう。男子の方や御子樣方でも容易に修繕出來まして糸や針がなくても立派に仕上りますから此の非常時の場合是非一家に一個御揃へ御使用下さい。（定價四十錢）
平市古鍛冶町一〇（縣社下）
阿康藥局
電話四四番
振替東京三〇〇

音が生命
ビクターラヂオ
5R15 ¥135
テレビアン
ナシヨナル
ビクター
代理店
富永ラヂオ店
［電 四九六］

新秋の味覺
とんかつ專門の店
興亜の秋を前にどうぞ一層の御ひいきで御引立をお願ひ致します
▼出前は迅速に御つとめ致します
平市仲田町（電話四六五）
かの家

肺・肋膜・心臓・胃腸の弱い方に
血となり肉となる……
生スッポンの
生血・生膽」を御勸め致します
本場
平市六丁目通り
生スッポン特約養鼈場
養鼈場 平市正月町一番地
さかいや商店
スッポン黑燒、む！燒粉末もあります

磐城の御みやげ品
改め靈峰羊かん
名物 みやま羊羹（名産梨かん）
―赤井嶽、二ッ箭山、山祇神社參詣土產！
姉妹品
磐城耶馬溪……美山羊羹
同 七濱……のり羊羹
同 豐間……辨天羊羹
小川郷驛前
製造販賣元 平屋賣店

精神病科
脳脊髓病科
神經病科
內務省指定
福島縣立代用精神病院
郡山腦病院
郡山驛より約三十丁 安積中學より約五丁
郡山市外大槻村針生
電話九二五番
院長 醫學士 金森五郎
入院隨時

▼男女車掌募集
平市四丁目
鈴木自動車部
電話二一七番

原始郷に人知れぬ快
棹も揚げ間に合はぬ岩魚の群捿
官行造林の戸渡部落

大体文化の水準と見るべき、省線から僅かに十餘キロの近距離乍ら、全く今日のバスに置き去りを食つた原始郷に永戸村の戸渡部落がある。

○磐越線の小川郷驛から辛島、十文字と爪先上りの鳥徑樵路に幾度か休み乍ら喘ぎ〳〵辿り着く山奥のそこは二つ箭の頂きよりは遙かに高い標高を有する高原の一寸した盆地に在る耕地が田十町に畑十二町歩、天明(二、四四一)の飢饉に生き殘つた上の家、下の家の兩宗家からさした枝葉と明治七年この地を相して設けられた放牧會社關係の移住者と上小川方面などからの者を迎へ現在十七戸これが今どきの所謂隣組の觀念とは些かそぐはない五丁八町の間隔を置いて點在し、明くれば耕し漁り獵し、暮るれば榾火を圍む一家團欒と石油節約とあつて未だ宵のうちから寢てしまふ超簡易生活振り

○萬古の神祕を籠めて、附近に鬱蒼たる處女林に初めて斧鉞を入れたのが最近大正の初期、營林署の所謂官行造林が創められてから年々入り込んだ關係從業者が今では合計で三十八戸、一家三人平均として百十餘名の人が殖え、之らは製材用の自家用發電に惠まれ前記先住部落民と異つて懐古的なランプの不自由を免れ文明への一歩前進を見せてゐるがその關係子弟は村で一つの學校(一年から六年迄單級五十八名清野先生一人で處理)へ通ひ高等科へ進學の兒童は小川郷へ下宿させられてゐる

○原始郷たる戸渡のアウトラインは斯くも風韻索莫たるものであるが、人知れぬ怡樂は一度綸を垂れると竿を揚げ間に合はぬと云ふ太公望!乃至一等の風月と謂ふには餘りにも慌だしい此所でのみ味はれる釣りの快味で、即ち木戸川を水源とする大川と昔し殿様がどうとかの傳説を有する殿小屋附近の支流には無數の岩魚が捿息し、部落民の味覺を喜ばせてゐる

交通機關として途中若干區間は馬トロの便があり既に泊り掛けで平市からもその醍醐味を味ひに行つた好事家もあるがその人の談によると、部落民一同は輯睦融和、家業に精勵して而も禮儀の正しいのはこの土地の特徴であり、人里離れた山里乍ら大政翼贊、臣道實踐の顯もしい銃後氣分を漂はせてゐるとの事である

地方の石炭荷主が早くも年末對策
卅日關係者湯本に會同

年末における石炭輸送の圓滑を圖るため、水戸運事では來る卅日午前十時より湯本町自治會館において『石炭荷主懇談會』を開催することになつたが參集者は本局並に運事の輸送係、常磐地區礦炭抗代表者三十餘名である

農村協同体建設協議

地方に於ける農村協同体建設同盟結成協議會は來る三十日午前十一時から平市團体事務所に開く。これは本縣産業組合青年聯盟の發展的解消に伴ふ全縣的の新運動であると

教育の新体制は
磐中から校長會議へ一石

中等學校にも新体制!と二十三、四の兩日田村中學校に於ても小池視學、師範、中學校長十三名が會同種々時局即應の檢討をなした、磐中からは山森校長が一、教育は如何に新体制を實施すべきかの協議題を提げて出席したが何れ時局下の心構へを强調せぬはない今回の議題中一、修學旅行を廢止し行軍演習で宿泊訓練せよなどは特に各方面の關心を

花近き或る夜のスリル
好間强盜の檢索陣營追憶

平署 喜久地寒

〔五〕

…推定被害狀況…

五郎君の陳述と現場に殘された色々な痕跡から推して、被害者チヨさんは末子五郎君を抱擬して、勝手八疊間に南枕に床に就いたらしい。其處に午前一時頃東の方の雨戸を外して押入つた一人の賊は床の間に飾られた日本刀に目をつけ、豫て用意して這入つた木刀を其の日本刀とすり換へ、鞘を拂つて拔刀の儘チヨさんの枕元に現はれ、電燈を消してチヨさんを呼び起し、二百圓を貸して呉れと强要した。驚いて目を醒したチヨさんは枕元に立つて懐中電燈を點滅させながら、金を出さぬと是だぞと突きつけた恐ろしく光る長い物が日本刀であることを知つてゾツと身震ひをした。その時チヨさんの床の下には村役場から貰つたばかりの軍人扶助金十四圓が這入つてゐたが、チヨさんはお上から頂戴したこの金を盗賊如きに渡してなるものかと健氣にも金の持合せ等一錢もないと拒絕した。然し兇器を持つて押入つた計畫的强盗が、そんな斷りを受けてのめ〳〵歸りはしなかつた。尚も金を出せと迫る賊の手を遁れんとして突嗟の間に妙案を得た「そんなに入用な金なら隣に行けば二百圓位は借りられるから借りて來て上げやう」と床から起上つた。其の時まで息を殺して小さくなつて居た五郎君が大聲立てゝ泣き出したそれに狼狽した賊は「小僧騷ぐと叩き斬るぞ」と五郎君の頭の上から布團を覆せてしまつた。その隙を見てチヨさんは表に飛出して。悲壯な聲を絞つて助けを求めた。驚いた賊は騷がれては一大事とチヨさんの後を追つた。五十間程遁れたチヨさんは遂に賊に追付かれ背後から後頭部に二刀を浴びて其の場に倒れた。賊は血刀提げて約七十間を引返し其處に日本刀を突き刺して何れにか逃走したものと推定した。

…捜査方針…

一、張込線の擴大强化

現場檢證員以外の署員を以て事件屆出と同時に、要所々々に張込んでゐる其の張込線を更に擴大强化して縣北の一部に會津方部を除く縣下の要所々々に張込員を配置して犯人の縣外脫出を防止せんとする捜査。

睃り將來何らかの考慮が行はるゝものと觀られてゐる

女青主催 敬老會
あす公會堂で

市東、西兩青年團女子部聯合の敬老會を明二十七日午前十時公會堂に開き八十才以上の高齡者及出征遺家族を招き餘興として小學女兒の舞踊を見せる

奇病物語(六)

松村亨

とくりご、足無し

昔は生れ乍らにして兩手のないものを『とくりご』と云つた。延寶年間に大阪に生れ乍ら兩手のないものがあつた。この事は兼葭堂雜錄にも濟諧俗談にも出てゐる。兩手がないから足で用を辨じ、その上字を書いたり弓を射たりした。又芝居に出たり見世物になつたりした。

又西陽雜俎には大曆年中東都天津橋に一人の乞食があつて兩手がないので右の足で筆をはさみ經を寫して錢を乞ふたが、先づ文字を書かうと思ふときは筆を再三投上げて高さ尺餘に及んだが曾つて取落した事がなく、文字は手で書くより上手であつたと述べてある。

私がこれ迄に見たのは大阪で兩手を斬られて生命だけ助つた某妓で、その後剃髮して尼となつたが、この人は口で繪や字を上手に書いた。

次に寳曆九年產磨男と云ふものか大阪道頓堀で見世物になつた。この男は兩脚とも膝から下が無く、色々な藝をした。屛風や高欄を傳つたり、米の曲持、天秤がけの曲、吹杖の曲、雨中の曲、鐵拐が峯駒落しの曲等色々やつた。

右のに樣手足いづれか一つ無くて色々の藝をするものは澤山あり、私も八幡樣のお祭にはよく見世物になつてゐたのを見た事がある生れ乍らにして手足が無いと云ふのは勿論ないわけでないが、左樣なものは多くは育たないので、この樣に書物にあるのは生長後に病氣やら怪我やらで失つたのを粉飾して云つたものであらう。さて外傷のため手足をもがれて了ふのは仕方がないとして。病氣で切斷されて了ふものに『脫疽』と云ふものがある。

幕末から明治維新にかけて江戸市中の人氣を集めた女形の名優澤村田之助(第三世)は特筆すべき脫疽患者で、我國最初の義脚をした男である。彼が患ひ初めたのは慶應元年三月頃と云ふ事であるが、次第に惡くなり當時横濱で開業してゐた米國人の醫者ヘボンの手術によつて左足を切斷し、後右足を切斷し、それで一時良かつたが、飲む、打つ買ふの不身持を續けたうとう〳〵兩手共脫落し、末路は憐れであつた『脫疽』は現今では或程度迄癒る病氣である。私共は今は滅多に切斷はしない。

× ×

語り語つて足迄來た。一先づこの邊で筆を擱く事とする。 (完)

警防團檢閲

平は來月廿四日

平署管內警防團秋季檢閲日割決定分左の如し

(十一月)平二十四日、湯本二十五日、好間二十九日、小名濱二十八日、赤井二十七日、磐崎二十六日、永戸三十日、鐸渡二十九日、江名十日、(十二月)內郷八日

小學教員保姆檢定試驗終る
結果は來月中發表か

濱三郡に田村を加へた志望者に對する保姆及び小學教員檢定試驗は去る二十二日以來平第三小學校に於て磐山第一校長其他委員により執行、愈よ今二十六日を以て終了したが受驗者は保姆一、尋常科准教員三四、同正教員二〇、小學校本科正教員二〇、同專科教員四二合計百十七名で結果は來月中位に發表さるべく、時恰も教員拂底の折柄、合格者は直に獲得した新資格を以て優遇されるものと看取さる

地方炭礦と農村に秋の勞力交流不要
調整に就て 立平職業紹介所長の觀測

農村から都會へ、都會から逆に農村へと季節的な勞働力の交流が非常に活潑に行はれたり農業勞働力の不足を充たすために移動班と云はれる農村自身の勞働力の移動と工場勞働者の集團的歸農など大掛りな協力が各方面とも交流的に行はれてゐる折柄石城地方では收穫季に當面して居乍ら今の處附近農村と各炭礦等の間にそうした動きが殆ど見らず田植ゑ前後と少からず其の趣を異にしてゐるが右に關し立平職業紹介所長は語る

挿秧季にあつては灌漑水季節、天候の關係で一齊に人手を要するに加へ恰も養蠶の多忙期に當るので炭礦從業員の一時的歸農を必要としたに反し、刈り入れは漸進的で事足り地方のそれは未だ之を必要とする程度に至つて居ない爲であらう云々

小宅家慶事

市內大町磐城無盡會長小宅嘉久治氏次男小宅鍬夫君(二八)は田町松月堂金子宗平氏夫妻の媒妁にて上小川村草野正喜氏三女民子孃(二四)と婚姻整ひ明二十七日縣社子鍬倉神社に於て擧式する新郎は早大政治經濟學部を出て相生無盡に務むる新進社員、新婦は東京家政學院出の才媛である

秋陽を浴びて!
市四小學 健康群像の跳躍
明後日第二で体育大會

健康の秋は漸く迫る蕭殺の氣に一入の緊張が加速され、市內四小學校が過般來猛練習裡に待望した第三回市內聯合体育大會は愈よ明後日午前八時半から第三小學校庭に於て開催される右大會は小學五年以上の男女二千餘名が市內水入らずの跳躍に健康タヒラを昂揚する快擧であり、一碧の澄空下に展開さるゝ壯觀が想ひやられる

西部青年 川前行

市西部青年團では二十七日朝汽車で紅葉の川前へ、歸路行軍する參加二十餘名

今月分の砂糖
廿九日頃配給

平市十月分の家庭用砂糖は大体來る二十九日頃配給出來る見込みなので市では切符の準備など圓滑なる配給を期してゐる

拈華微笑

目前の收獲に別段勞力の交流も要らぬ!と地方に於ける銃後の秋安泰

□

前線を安んずる一つとして室に結構

□

大政翼贊、臣道實踐は人里離れた戸渡の山奥まで微笑ましい限り

□

年寒うして石炭話、早くも關係者の發送協議

□

昨夜庭前葉に聲あり、無果花のわくら葉篩ひ落されて殘りすくなとなる

○○○○○

自動車運轉合格 最近の本縣自動車運轉免許試驗合格者中地方關係は瀧田平藏君(平)たゞ一人

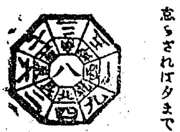
過親不知書感

小野蕪平

去來湖勢故巖涯
閑昔行人幾蹈危
穩坐驛車撫奇勝
即今誰不頌淸時

舊九月廿七日 新十月二十七日 日曜 癸卯 大安 執 昴宿

▲一白 自分で自分の運氣を損ひ苦勞することある日▲二黑 天爲を阻る如き勢ひある大吉運日たり▲三碧 勝利の日投機心を起す時は大敗を見るべし▲四綠 油斷すれば幸運のかみに逃げらるゝことあり▲五黃 惱みもあれど又大に助るものありて立身す▲六白 戰々恐々身心共に落付きの無き日外出注意▲七赤 進むは吉けれど不慮の出來事に注意すべし▲八白 願ひ事の叶ふ日入學名弘め移轉等何れも吉▲九紫 遲々たる運氣も怠らざれば夕までにはのびる



舊九月廿八日 新十月二十八日 月曜 甲辰 赤口 破 畢宿

▲一白 內には穩なれども外には不信を招き易き日▲二黑 平凡の如く見ゆれども根氣次第利得ある日▲三碧 先を見込での賣買には失敗に陷入り易き日▲四綠 初めは運氣弱けれども次第に吉となるべし▲五黃 內輪もめさへなければ自ら發展し行べき日▲六白 自重して進めば大吉なり婚約企業皆成べし▲七赤 引立てに逢ふて昇進すべき日名弘入學皆吉▲八白 事業選擇に苦しむ日急く時は不覺を採くべし▲九紫 目上の差圖を受けて働けば大吉日と成べし

二十七日 【小名濱測候所觀測】
滿潮 前 一、二五 干潮 前六、五〇 後七、四五

二十八日
滿潮 前 一、三五 後 二、〇五 干潮 前八、〇〇 後八、三五

御誂ひ品 既製品 髙島屋洋服店 平二電三八六

お醬油は……ヤマフル
味噌醬油 たひら正宗 鰹節 食品料
塩屋 山崎合名會社 福島縣平市 電話(營業部一〇番 本店二七番)
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

▲一、タバコをヤメルのによくきく藥
確實に禁煙に成功の出來る禁煙含嗽藥「ニコチロン」一瓶一圓
を是非御試用を御勸め致します
漢方胃腸藥の專賣所 山野邊藥局

平……四倉 往復劵二割引四十錢
(團体は特に御相談に應じます)
御案內 自動車停留所からの道程
※新舞子、仁田浦へ……約二丁
※四倉海岸へ……約二丁
※波立藥師、鰐ケ淵海岸へは……約八丁
合名會社 平四倉乘合自動車 電話五四九

科外生徒募集
一、邦文タイプライター科
●時代の尖端を行く昭和婦人の職業
入學は每月隨時
卒業期間 四ケ月(高女卒程度) 十ケ月(小高卒程度)
●卒業者の就職紹介は各方面と連絡を有し斡旋致します
一、洋裁科
入學は每月隨時
卒業期間 本科一ケ年 速成科六ケ月
文部大臣認可 平陽女學校 (平市 電話四四五番)

耳鼻咽喉科專門 醫學士 鈴木正昴
平市田町(電話六一三番) 鎌田女學校前
『入院のお需めに應ず』(看護婦及び見習看護婦募集)
齒科口腔外科 日本齒科醫學士 鈴木吾政
內郷村高坂磐炭病院前
鈴木醫院